



# 2021年度 愛知県公立高校入試問題

## Bグループ 分析コメント

教科	コメント
国語	<p><b>【難易度】(2020年度との比較) やや難化 (Aとの比較) やや難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>文章量が全体で約5850字になり、2020年度のBグループ(約4850字)、2021年度のAグループ(約5300字)よりも大幅に増加した。</li><li>2020年度はA・Bいずれのグループでも出題されなかった文学的文章(小説)が出題されたが、答えを二つ選ぶ完答式の設問は差のつきやすい問題であった。</li><li>Aグループでは出題されなかった本文と生徒のまとめた文章を照らし合わせて考える問題が出題された。また、要約問題は、Aグループよりまとめるのに労を要する出題であった。</li><li>古典は漢文(書き下し文)が出題されたが、内容自体が難しい文章であった。</li></ul>
数学	<p><b>【難易度】(2020年度との比較) 易化 (Aとの比較) やや難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>基本を問う大設問1の問題が増加し、応用力や思考力を問う大設問2の問題が減少したことや、大設問2の内容も2020年度と比較すると負荷が軽減された取り組みやすい問題であったことから、全体として易化した。</li><li>図形問題において、Aグループと比べて解法の糸口がつかみにくい問題の出題があり、やや難化した。</li><li>A・B両グループでコロナ禍における学習進度の差があることに対する配慮があった。</li></ul>
社会	<p><b>【難易度】(2020年度との比較) 変化なし (Aとの比較) やや難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>3分野ともに資料や文章の読み取りにおいて、複数の資料等を組み合わせて深く考えないと正答にたどりつけない出題が複数あった。</li><li>2020年度Bグループでは完答問題が2問であったが、2021年度では2019年度と同じ5問になった。</li><li>論述は、Aグループでは2つの語群から適切な語句を選択させる形式であったが、Bグループでは、指定語句を1語用いる形式での出題であった。</li></ul>
理科	<p><b>【難易度】(2020年度との比較) やや難化 (Aとの比較) 難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>2020年度同様、グラフをかく問題が1問出題され、それに加えて文章記述の問題も出題された。</li><li>2020年度は完答問題が6問出題されたが、2021年度は2問しか出題されなかった。</li><li>2019年度・2020年度に出題された会話形式の文章がA・Bともに出題されなかった。</li><li>設問文の文章量が2020年度よりも少なくなったため、時間に余裕をもって解答することができたと思われるが、幅広い応用力を必要とする問題が出題されたこともあり、全体的にはやや難化したと思われる。</li></ul>
英語	<p><b>【難易度】(2020年度との比較) 変化なし (Aとの比較) 変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>筆記検査-大設問1の条件英作文は、道路標識を見て、5語以上でその説明をする形式であった。</li><li>筆記検査-大設問2の対話文完成は、Aグループと同様に、単語の最初の文字がすべて与えられていて、内容が読み取り易く、解答し易かった。</li><li>Aグループと同様に、筆記検査-大設問3の長文読解(5)〔内容把握を問う問題〕は、答えが1つとは限らないものであった。</li><li>教科書の表現を確実に理解することにより、解答できる問題が多く見られた。</li></ul>